

# 旧日本史 B

(解答番号 1 ~ 32)

**第1問** 次の文章A・Bは、文化祭で地域の歴史についてポスター発表しようと考えている、高校の歴史研究部に所属するケンさんとヒロさんとの会話と、ポスター作成に向けたメモである。これらの文章を読み、後の問い(問1～6)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 18)

A

ケン：地図を見てみると、益田市(島根県)には三宅御土居跡みやけおどいなど、地域の有力武士である益田氏に關係する史跡のほか、柿本神社など、『ア』の歌人として有名な柿本人麻呂きまのひとまろに関するスポットもあるようだね。

ヒロ：萬福寺庭園まんぶくじをはじめ、『イ』などの水墨画で有名な雪舟に関する史跡もあるみたいだけど、教科書に載っていないような歴史にも光を当てたいな。蟠竜湖ばんりゅうこから引水している用水はどうか。

ケン：トンネルを掘って引水しているようだね。市のパンフレットによると、18世紀の初頭に造られたらしいけど、㉠鉾山開発の技術を転用して造ったのかな。

ヒロ：そうかもね。あと、市内の高津町の一部(地図中のあ)には「蠟座」ろうざという地名があるようだね。これって㉢江戸時代の藩の専売制と関係があると思うんだけど、こういう地名から調べるのも面白いかも。

ケン：「蠟座」の近く(地図中のい)には「舟入」ふないりという地名もあるらしいね。今は港がないみたいだけど、昔は港があったのかな。

ヒロ：㉣高津川を隔てた対岸には中須東原遺跡と中須西原遺跡なかずひがしはら なかすにしはら、さらに益田川を隔てた対岸には沖手遺跡おきてという中世の港町の遺跡があるから、その可能性は高いよね。実際はどうだったんだろう。

ケン：よし、高津に港があったのかを調べて、これを発表しようよ。

地図



(地理院地図により作成)

問 1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- |   |   |     |   |       |
|---|---|-----|---|-------|
| ① | ア | 万葉集 | イ | 瓢鮎図   |
| ② | ア | 万葉集 | イ | 四季山水図 |
| ③ | ア | 懷風藻 | イ | 瓢鮎図   |
| ④ | ア | 懷風藻 | イ | 四季山水図 |

## 旧日本史B

問 2 下線部②に関連して、戦国時代から江戸時代にかけての鉱山や鉱業について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 佐渡では銅を中心に大規模な鉱山開発が進められた。
- ② 琉球から灰吹法という精錬技術が伝えられ、銀の生産量が増大した。
- ③ 採掘した鉄鉱石を主要な原料とするたたら製鉄が、中部地方を中心に行われた。
- ④ 豊臣政権や江戸幕府は、全国の主要な鉱山を支配下に置き、その経済基盤とした。

問 3 下線部①に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 3

X 18世紀半ばから、世直しを求める百姓一揆が起きようになり、藩による専売制の撤廃を要求した。

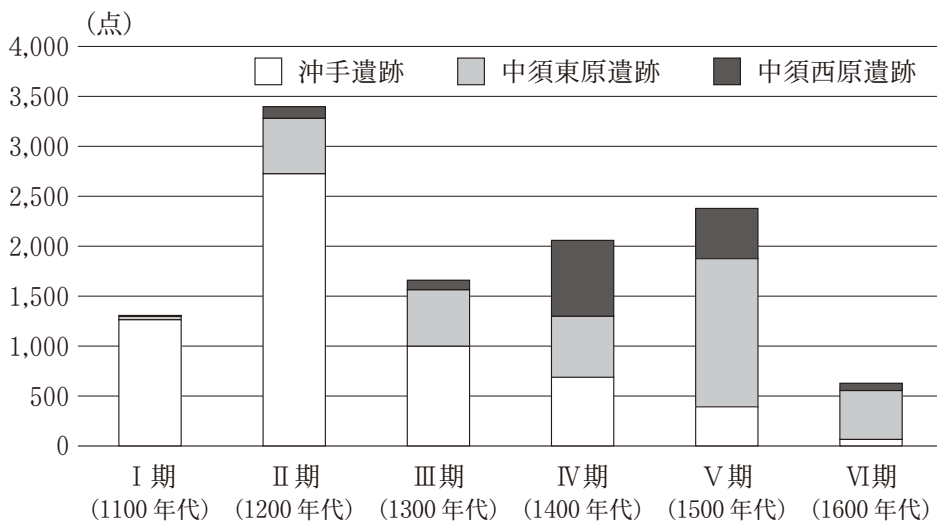
Y 19世紀前半に、薩摩藩では、調所広郷によって奄美の黒砂糖の専売が強化された。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| ① X 正    Y 正 | ② X 正    Y 誤 |
| ③ X 誤    Y 正 | ④ X 誤    Y 誤 |

問 4 下線部㉔に関連して、ヒロさんは各遺跡から出土した中世の輸入陶磁器量の推移を示した次のグラフを見つけた。グラフから読み取れる内容の背景にある対外関係について述べた文として最も適切なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

4

グラフ 各遺跡から出土した輸入陶磁器量の推移



(村木二郎ほか「中世益田の貿易陶磁調査」により作成)

- ① I 期から II 期にかけて輸入陶磁器量は増加したが、その背景には明との貿易の活性化があったと考えられる。
- ② 沖手遺跡から出土した輸入陶磁器量は、II 期をピークに減少していくが、その背景には渤海の滅亡による貿易の衰退があったと考えられる。
- ③ III 期から IV 期にかけて輸入陶磁器量は再び増加したが、その背景には朝鮮半島との貿易の活性化があったと考えられる。
- ④ V 期から VI 期にかけて輸入陶磁器量は減少しているが、その背景には豊臣秀吉の朝鮮出兵の影響で 17 世紀末まで日朝間の国交が途絶えたことがあったと考えられる。

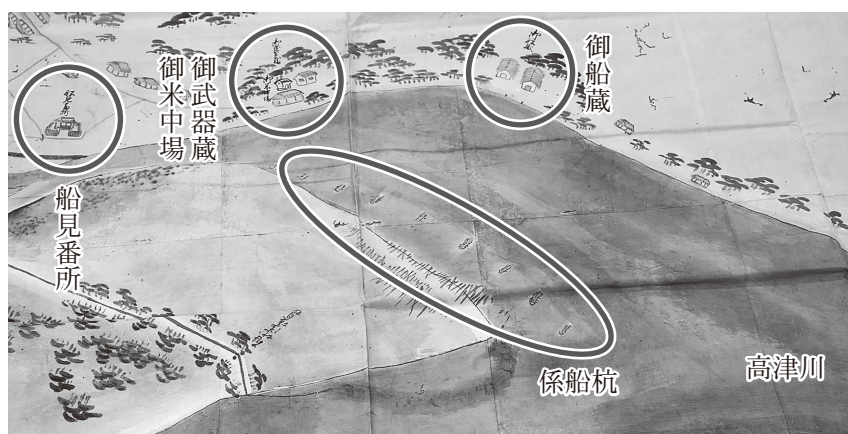
## 旧日本史B

### B

#### メモ

- ・高津川の河口付近(地図のい)を海側から描いた江戸時代の図から、港があったことが確認できる(高津港)。また史料1から、図に見える地形が中世から変わっていないことも分かる。
- ・高津港は、史料2より鎌倉時代から存在していたことが確実である。
- ・㊦大正期の山陰本線の開通により、鉄道による輸送が拡大し、高津港は衰退していった。

#### 図



(『石見国高津川水域大絵図』)

(注) 船見番所・御米中場・御武器蔵・御船蔵：いずれも高津村を治めていた津和野藩の施設。

(注) 係船杭<sup>くい</sup>：船を係留させる施設。

史料1 15世紀半ばに成立した『正徹物語』<sup>しょうてつ</sup>

(柿本人麻呂の木像が置かれたのは)石見の高津という所なり。この所は西の方には入海ありて、うしろには高津の山がめぐれる所に、畠<sup>はたけ</sup>なかに宝形<sup>ほうぎょうづくり</sup>造の堂に安置したり。

史料2 1240年の北条重時の書状(大意)

荘園領主側が高津郷にある海・川の港の支配に地頭をいっさい関与させないようになりたいと訴えています。どうしたらいいでしょうか。

問 5 図と史料1・2に関して述べた次の文a～dについて、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 5

- a 図と史料1から、高津に港が設けられたのは、高津川の河口付近に船が停泊し易い入り江が広がっていたからだと分かる。
- b 史料1と史料2から、高津に港が設けられたのは、室町時代に建てられた柿本人麻呂を祀る堂に人々が集うようになったからだと分かる。
- c 史料2から、鎌倉時代に荘園領主は地頭に排除されていて、高津の港に関わっていなかったと分かる。
- d 図から、江戸時代の高津港が藩によって管理されていたと分かる。

- ① a・c                  ② a・d                  ③ b・c                  ④ b・d

問 6 下線部④に関連して、大正期の鉄道と海運業に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 6

X この政党は、大戦景気を背景とした積極政策を掲げた内閣の母体となり、鉄道網の充実を図る政策を支えた。

Y ポーツマス条約を受けて日本が租借していたこの地域と、山陰地方の国際貿易港となっていた浜田港との間に航路が開かれ、材木をはじめとする島根県西部の産物が輸出されていた。

- a 立憲民政党                  b 立憲政友会                  c 南洋諸島                  d 関東州

- ① X－a      Y－c                  ② X－a      Y－d  
 ③ X－b      Y－c                  ④ X－b      Y－d

## 旧日本史B

**第2問** 次の文章A・Bは、博物館の展覧会を見に行ったオクさんとマルさんが、展示されている史料に着目して交わした会話である。この文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

### A

オ ク：史料1は奈良の正倉院宝庫に伝わった正倉院文書のなかの一枚だね。何が書かれているんだろう。

マ ル：下総国<sup>うなかつ</sup>海上郡は、今の千葉県香取市から銚子市のあたりだね。㉔海上郡出身の他田日奉部直神護が平城京の中で働いていて、故郷で郡司の大領<sup>だいりょう</sup>(長官)に任命されることを希望しているみたいだよ。奈良時代の郡司の大領になれる条件も見えてとれるね。

オ ク：神護が中宮舎人として仕えていた藤原宮子は、聖武天皇の生母のことだね。すると神護は、㉕藤原麻呂や宮子のような都の有力者に長く仕えていて、その実績なども主張して、大領になろうとしたんだね。

マ ル：正倉院宝庫にこうした史料が伝えられたおかげで、奈良時代の人々の暮らしや働きぶりが、今でも分かるんだ。奈良には、㉖当時の文化を伝えるものが多く残されているから、今度は奈良を訪れてみようかな。

### 史料1

平城京左京七条の住人で従八位下の位をもつ他田日奉部直神護が、下総国海上郡の大領への任命を希望します。私(神護)の祖父は孝徳天皇の時代に少領<sup>しょうりょう</sup>(次官)となり、父は天武天皇・持統天皇の時代に少領に、文武天皇の時代に大領となりました。兄もまた大領となりました。私は、故兵部卿<sup>ひょうぶきょう</sup>(藤原麻呂)のもとで養老二(718)年から神亀五(728)年まで11年間、中宮舎人として天平元(729)年から今に至る20年間、合わせて31年間仕えました。この実績があるので、祖父・父・兄が郡司として仕えたあとを受けて、海上郡の大領に任命されることを希望します。

(「他田日奉部直神護解」大意)

問 1 下線部②に関連して、史料 1 と奈良時代の郡司に関して述べた次の文 a ～ d について、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 7

- a 史料 1 によれば、神護は自らが有力者に仕えていたことに加えて、父祖代々郡司となっていた家柄を主張して、郡司に任命されることを希望している。
- b 史料 1 によれば、神護は仕えていた藤原宮子からの指示に基づいて、故郷の郡司に任命されることを希望している。
- c 郡司にはかつての国造など伝統的な地方豪族が任命され、任期が定められていた。
- d 郡司は国司の指揮の下、郡家(郡衙)で政務をとった。

- ① a ・ c                      ② a ・ d                      ③ b ・ c                      ④ b ・ d

問 2 下線部①に関連して、この頃の藤原氏が関わった出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 8

- Ⅰ 藤原光明子が聖武天皇の皇后に立てられた。
- Ⅱ 藤原広嗣が九州で反乱を起こした。
- Ⅲ 天然痘の大流行により武智麻呂ら藤原四兄弟が病死した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ                      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ                      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ  
 ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ                      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ                      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

## 旧日本史B

問 3 下線部㉔に関連して、古代の文化の特徴に関して述べた次の文X・Yと、古代の作品を示す後の写真あ・いについて、奈良時代の文化の特徴と作品の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 9

X 勅撰集が編まれるなど漢詩文が流行するとともに、密教の影響の強い文化が広まった。

Y 唐の文化の影響を強く受け、貴族を中心とした国際色豊かな文化となっている。

写真

あ

い

省 略

省 略

① X－あ

② X－い

③ Y－あ

④ Y－い

B

オ ク：展覧会でみた史料に興味があったので，平安時代の地方行政について調べてみたよ。平安時代の初めにも，㊦郡司は郡内の政務を担当したり，様々な職務があったようだね。

マ ル：国司は郡司を使いながら，国内を治めていたんだ。

オ ク：でも「尾張国郡司百姓等解文(尾張国郡司百姓等解)」(史料2)を見ると，国司と郡司との関係が変わってきているようだね。

マ ル：10世紀頃から㊧地方行政の様子に変化がみられるようになるというから，それとの関わりがあるかもしれないね。

史料2

当任<sup>かみ</sup>の守元命朝臣，去年三月中<sup>もつ</sup>を以て，幹了<sup>かんりよう</sup>(注1)の使<sup>えら</sup>を撰び，暴悪の人を<sup>つかわ</sup>差し，<sup>かんせき</sup>勘責せしむること切り焼く(注2)がごとし。往古旧代<sup>しか</sup>，然らざるところなり。しかして郡司の身より，部内の<sup>ふ るい</sup>負累(注3)と号して，<sup>みな ことごと</sup>皆悉く搜し取り，人民の<sup>えん</sup>烟(注4)より，所由の<sup>えんりよう</sup>差法(注5)と称して，暗に以て<sup>えんりよう</sup>冤凌(注6)し，一，二の家に乱入するの間，騒動を十，二十所に致す。

(注1) 幹了：身体が強健で才知に秀でていること。

(注2) 切り焼く：切って焼くこと。苦痛がひどいことのたとえ。

(注3) 部内の負累：ここでは郡内の累積した負債(未払いの租税)のことと考えられる。  
先例では徴収が免除されていた。

(注4) 人民の烟：人民の家。

(注5) 所由の差法：ここでは理由のある徴収の意と考えられる。

(注6) 冤凌：無実の罪を言い立てて，ひどいめに遭わせること。

## 旧日本史B

問 4 下線部㉑に関連して、平安時代初めの郡司に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

10

X 郡司の交替の事務引継ぎを監督させるために、勘解由使が設けられた。

Y 郡司の子弟のなかには、健児として採用され、国府の警備などにあたる者もいた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 5 下線部㉒に関連して、史料2と10世紀頃からの地方行政の変化について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

① 史料2によれば、国司のなかには、部下を指揮して先例を無視した徴税を行い、利益を得ようとする者も現れた。

② 史料2のように、郡司のなかには百姓と一緒にあって、暴政を行う国司を朝廷に訴える者が現れた。

③ 諸国や国家の財政を維持するために、任国に赴任する国司の最上席者に、一国の徴税などの面で大きな権限が与えられた。

④ 政府は律令体制の再建を進めるために、国司・郡司に命じて戸籍・計帳の作成を厳密に行わせ、戸を単位とした租税徴収を強化した。

**第3問** 次の文章は、日本史の授業で、中世社会と宗教について交わされた先生とリカさん、スズさんとの会話である。この文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

先生：中世社会では宗教勢力が政治的・社会的に大きな影響力をもっていたけど、このことを確かめるにはどんな点に着目したらいいでしょうか。

リカ：鎌倉幕府は天台宗や真言宗を重視し、鶴岡八幡宮など鎌倉の寺社を整備しています。武家勢力と宗教勢力の関係に着目するのがよいと思います。

スズ：賛成です。他にも、鎌倉幕府は、㉔ 律宗や禅宗を保護する政策も行い、多くの律僧や禅僧を鎌倉に招いていますね。

リカ：室町幕府は京都の土倉や酒屋に課税していますが、土倉や酒屋の多くは比叡山延暦寺の影響下にあったようです。㉕ 室町幕府の流通政策と寺社との関係についても調べてみようと思います。

スズ：中世の武家勢力と宗教勢力はいつも協調関係にあったのでしょうか。

先生：いいところに気が付いたね。それでは、スズさんは㉖ 武家勢力と寺社勢力との対立について調べてみるのはどうですか。もちろん、寺社勢力だけでなく、あわせて㉗ 豊臣政権のキリスト教政策も見逃さないようにね。

リカ：宗教勢力が政治力や経済力をもつまでに成長したのは、そもそも広く信者を獲得できたからではないでしょうか。中世の仏教諸宗派は打ち続く戦乱や飢饉の中、どんな人々でも仏の救済にすがれるよう、教義の研究を深め、信者の結集を図っています。そのような観点から㉘ 本願寺の成り立ちと歴史についても調べてみようと思います。

## 旧日本史B

問 1 下線部②に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 12

X 北条時頼に招かれ来日し、鎌倉に建長寺を開いた。

Y 西大寺を拠点に戒律の復興に努め、非人救済事業などを行った。

a 無学祖元      b 蘭溪道隆      c 明恵(高弁)      d 叡尊(思円)

① X — a      Y — c                      ② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c                      ④ X — b      Y — d

問 2 下線部①に関して、リカさんたちは幕府管領細川勝元が播磨国守護山名宗全に出した大山崎油座に関する次の史料1を見つけた。史料1と座に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 13

### 史料1

石清水八幡宮大山崎<sup>じん</sup>神人(注1)等申す、播磨国佐用郡中津河新宿以下の土民等、ほしいままに油器(注2)を立て置き、非分の商売(注3)を致すにつき、たびたび<sup>しぎょう</sup>施行(注4)せらるるのところ、なおもってその沙汰ありと云々。はなはだその<sup>とが</sup>咎を招くか。所詮、先例に任せ、かの油器を破却せらるべきの由、仰せ下さるるところなり。

(「離宮八幡宮文書」)

(注1) 神人：ここでは、石清水八幡宮に従属する大山崎油座の商人のこと。

(注2) 油器：荳胡麻から油をしぼる道具。

(注3) 非分の商売：ここでは座に属していない者による商売のこと。

(注4) 施行：将軍の命令を管領が守護に伝達すること。

**X** 史料1によると、幕府は、中津河新宿以下の土民が油商売に参入することを不当とし、石清水八幡宮の神人が保持する大山崎油座の独占権を保護した。

**Y** 座のなかには、関銭の免除などの特権を認められて、広く活動するものもあった。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問3 下線部㉔に関連して、各地で起こった紛争に関する次の史料X・Yと、その場所を示した後の地図上のa～cとの組合せとして正しいものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

14

**X** 一揆衆二十万人、富樫の城を取りまく。故<sup>ゆえ</sup>をもって、六月九日城を攻め落とされ、皆<sup>しょうがい</sup>生害す(注1)。しかし富樫一家の者一人これを取り立つ(注2)。

(『蔭涼軒日録』)

**Y** 叡山を取り詰め、根本中堂、山王二十一社を初め奉り、霊仏・霊社・僧坊・経巻、一字も残さず、一時に雲霞<sup>うんか</sup>の如く焼き払い、灰燼<sup>かいじん</sup>の地となるこそ哀れなれ。

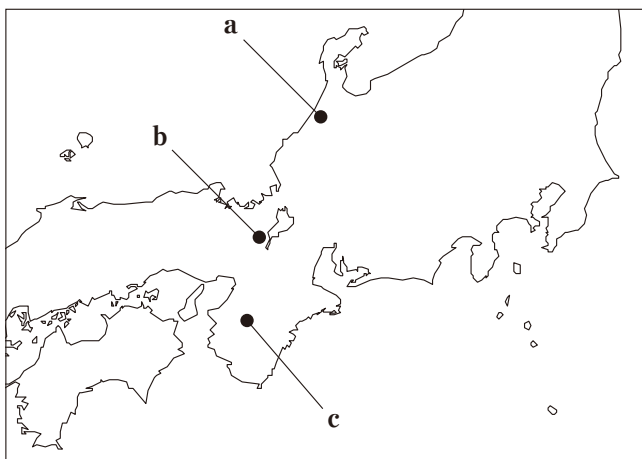
(『信長公記』)

(注1) 皆生害す：みな滅びた。

(注2) これを取り立つ：守護として擁立した。

## 旧日本史B

地図



- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| ① X — a    Y — b | ② X — a    Y — c |
| ③ X — b    Y — a | ④ X — b    Y — c |
| ⑤ X — c    Y — a | ⑥ X — c    Y — b |

問 4 下線部①に関連して、次の史料2に関して述べた後の文 a ～ d について、最も適当なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

15

### 史料2

- 一 日本は神国たるところ、きりしたん国より邪法を授け候儀、はなはだもってしかるべからず候事。
- 一 その国郡の者を近付け、門徒になし、神社仏閣を打ち破るの由、前代未聞に候。
- 一 伴天連、日域(注1)の仏法をあい破ること、<sup>くせごと</sup>曲事に候条、伴天連儀、日本の地には置かせられまじく候あいだ、今日より二十日の間に用意つかまつり、帰国すべく候。
- 一 今より以後、仏法の妨げをなさざる<sup>ともがら</sup>輩は、商人の儀は申すにおよばず、いずれにてもきりしたん国より往還くるしからず(注2)候条、その意をなすべき事。  
(「松浦文書」)

(注1) 日域：日本のこと。

(注2) くるしからず：差支えない。

- a 豊臣政権は、キリスト教宣教師やキリスト教徒が寺社を破壊していることを問題視している。
- b 豊臣政権は、日本は神国なのだから、キリスト教が仏教を排除しようとしていることは問題ないと考えている。
- c 豊臣政権はこの法令で、日本人を含むすべてのキリスト教徒を国外追放の対象としている。
- d 豊臣政権はこの法令で、南蛮貿易を継続する方針を示している。

- ① a・c                      ② a・d                      ③ b・c                      ④ b・d

問 5 下線部㉔に関して述べた文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① この宗派の信仰は、『教行信証』を著した鎌倉時代の僧侶の教えに基づいており、農民や地方武士の間に広まった。
- ② この宗派の信者のなかには、商工業者を中心として、寺院境内と一体となった寺内町と呼ばれる都市に集住する者があった。
- ③ この宗派の信者のなかには、京都で自治を行う商工業者の集団があったが、延暦寺の攻撃を受けて京都から追放された。
- ④ この寺院とその信者は、摂津国石山(大坂)に本拠を構え、織田信長の支配に激しく抵抗したが、織田氏の前に屈服した。

## 旧日本史B

**第4問** 江戸時代の参勤交代に関する次の文章を読み、後の問い(問1～5)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 16)

参勤交代は、幕末まで続いた大名統制策であったが、㉑幕府の財政政策と連動することもあった。㉒8代将軍徳川吉宗は一時期、幕府の財政悪化を受けて、上米(上げ米)の制を実施し、大名の参勤交代の負担を緩めている。

また、幕府は、参勤交代の際の大名行列が華美・大規模にならないよう、引き連れる供人数に関する基準を定め、行列が携える武具や道具も、幕府が許可したもののみを持たせるようにした。こうした統制に加え、大名の財政難などを要因として、大名行列は縮小・質素化していく傾向にあった。それでも大名は、大名家の格に応じた武具や道具を、幕府の許可を得て供に持たせ、江戸では足輕・中間<sup>ちゅうげん</sup>などの武家奉公人を臨時に雇って供を増やした。こうした大名行列が江戸の定番の名物となっていたことは、㉓江戸城への大名の登城風景を描いた屏風からうかがえる。

幕末期には、㉔文久の幕政改革の一環で、大名の国元から江戸への参勤が3年に1回に緩和された。その後、幕府は従来の参勤交代制への復帰を指示したが、幕府の大名統制力の低下などにより、元には戻らなかった。

**問1** 下線部㉑に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 17

- Ⅰ 新井白石の意見を採用し、長崎貿易での金銀の海外流出を防ぐため、海舶互市新例を出した。
- Ⅱ 南鐐二朱銀を鑄造して金を中心とする貨幣制度への一本化を図るとともに、株仲間を広く公認し、営業税による増収を目指した。
- Ⅲ 荻原重秀の提案により、金の含有率を減らした貨幣を鑄造してその差額を幕府の収益とした。

- |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ | ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ | ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ |
| ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ | ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ | ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ |

- 問 2 下線部①に関連して、次の史料1は、岡山藩の儒学者である湯浅常山が、荻生徂徠の逸話を聞き書きしたものである。下線部①と史料1に関して述べた文として誤っているものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 18

史料1

ゆうとくびよう  
有徳廟(注1)の上米を命ぜられたる時(中略)「借り上げ(注2)とは何ごとぞ。  
海内の封国、皆国家の命なり(注3)。御用あらば何とて上げよと仰せ出されぬ  
ぞや。御借とは何ごとぞや。聞えぬことなり」と(徂徠は)いわ云れし由。

(「文会雑記」)

(注1) 有徳廟：徳川吉宗。

(注2) 借り上げ：この逸話によれば、荻生徂徠は上米(上げ米)の制について、幕府が大名から米を借りることにしたと解釈している。

(注3) 海内の封国、皆国家の命なり：将軍が大名に領地の支配権を認めること。

- ① 史料1によれば、荻生徂徠は、全国の領地はすべて将軍のものであると考えていた。
- ② 史料1によれば、荻生徂徠は、徳川吉宗が大名から米を借りるとしたことを批判した。
- ③ 幕府は、石高1万石につき米100石を大名に上納させ、大名の江戸滞在期間を従来の半分に短縮した。
- ④ 幕府は、上米(上げ米)の制と同時期に、大名に対して、検見法(検見取法)の採用を命じた。

- 問 3 下線部③に関して、大名行列と周囲の様子を描いた次の図と、大名行列に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 19

図



因州鳥取城三拾二万五千石松平因幡守様

御酒いろいろ

(『江戸城登城風景図屏風』)

X 図によれば、大名行列が通行している時、商いをしている人たちは営業を中断し、旅姿の人とともに行列に向かって平伏している。

Y 大名行列が、江戸と国元とを行き来することなどによって、大名が利用する本陣のある宿場町が発展した。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

- 問 4 下線部㉑に関連して、次の史料2は、幕府が参勤交代の緩和後に出した法令の一節である。下線部㉑と史料2に関して述べた後の文 a ~ d について、正しいものの組合せを、後の①~④のうちから一つ選べ。

20

史料2

諸家在府(注1)の向きも相減り候に付きては、是迄町方請(注2)にて召し抱え置き候足輕・中間等、追々暇差し出し(注3)候向きもこれあるべし。(中略)当地(注4)にて身分片付方(注5)これなく、旧里へ帰郷相願ひ候者は御手下さる。

(「御書付留」)

- (注1) 諸家在府：大名とその家臣が江戸に滞在すること。  
 (注2) 町方請：町人が身元を保証すること。  
 (注3) 暇差し出し：解雇すること。  
 (注4) 当地：ここでは江戸。  
 (注5) 身分片付方：身の振り方。

- a 史料2によれば、参勤交代の緩和により大名の江戸滞在期間が短縮され、足輕・中間などの奉公人が解雇される場合があったことが分かる。  
 b 史料2によれば、江戸で生活していく手段のない者は、強制的に国元に帰されたことが分かる。  
 c 文久の幕政改革の一環として、幕府は、前水戸藩主の徳川斉昭を幕政に参画させ、江戸湾に台場を築いた。  
 d 文久の幕政改革の一環として、幕府は、松平慶永を政事総裁職に、徳川慶喜を將軍後見職に任命し、西洋式の軍制を採用した。

- ① a・c                      ② a・d                      ③ b・c                      ④ b・d

## 旧日本史B

問 5 江戸時代の幕府と大名との関係について述べた文として正しいものを，次の

①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 幕府が大名の末期養子の禁止を緩和したことは，牢人の大量発生を引き起こし，社会秩序を不安定化させた。
- ② 幕府は，大名が行列に持たせる武具や道具を許可制にし，供人数の基準を示して統制することで，行列の華美・大規模化を抑えようとした。
- ③ 大名が行列を編成して妻子とともに江戸と国元とを往復する参勤交代は，大名にとって経済的負担が大きかった。
- ④ 大名は，対外関係の緊張に伴う海岸防備などの軍役を務めるため，18世紀後半から家臣への俸禄の支給を，地方知行から蔵米に変更し始めた。

**第5問** ハルカさんは、明治新政府の改革に関する授業を受けて、現在の都道府県につながる廃藩置県に興味を持ち、調べることにした。次のメモは、ハルカさんが学んだこと、疑問に思ったこと、それらを考察する方法をまとめたものである。このメモを読み、後の問い(問1～4)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 12)

## メモ

学んだこと：明治新政府は、まず①4藩の藩主に版籍奉還を願い出させた後、全藩主にも命じた。その2年後には廃藩置県を断行し、翌年、琉球には琉球藩を置き、国王を藩王に任じた。②廃藩置県から8年後に沖縄県の設置を断行した。

**疑問1**：新政府はどのような国家体制をつくろうとしたのだろう。

考察する方法：新政府に関わった人物の考え方を調べる。

**疑問2**：琉球藩は、新政府の政策にどのように対応したのだろう。

考察する方法：新政府と琉球藩とのやりとりを調べる。

**問1** 下線部②に含まれる藩や、そのいずれかに属した人物について説明した次の文X・Yと、それに該当する後の語句a～dとの組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 22

X 朝廷を動かして幕府に攘夷の決行を迫り、幕府の命令に応じて外国船を砲撃した。

Y 將軍徳川慶喜に前藩主を通して政権の返還を勧め、明治新政府の成立後は自由民権運動に深く関わった。

a 薩摩藩

b 長州藩

c 後藤象二郎

d 副島種臣

① X — a      Y — c

② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c

④ X — b      Y — d

## 旧日本史B

問 2 下線部①に関して、廃藩置県から沖縄県が置かれるまでの期間に起こった出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 23

Ⅰ 参議の一部は、朝鮮に西郷隆盛を使節として派遣すべきと主張したが、退けられたため辞職した。

Ⅱ 熊本・福岡・山口の各県で相次いで不平士族の反乱が起きた。

Ⅲ 政府は士族層の不満を抑える目的もあって、台湾での琉球漂流民殺害事件を口実に、台湾に出兵した。

① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ

② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ

③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ

④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ

⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ

⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

問 3 疑問 1 について考察するため、ハルカさんは、明治新政府の首脳の一人であった木戸孝允の手紙を読んだ。次の史料 1 は版籍奉還以前に木戸が書いた手紙、後の図 1・2 はその手紙の中で木戸が描いたイラストである。史料 1 と木戸孝允に関して述べた後の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 24

### 史料 1

今日まで皇国(注1)の形勢右の如く(図1)にて、各々自分の山を高くいたしたくとの了簡(注2)にて、皇国一致と申すところ元より覚束なく、したがって気脈(注3)等も各々と相なり、天下の一力をもって外に当り候ところ始終むずかしく、よって、皇国かくの如くの体(図2)と相なり、朝廷の御基本に基づき奉り、各々順々に肩をなし、一体一力をもって共に皇国を維持つかまつり候ときは、五州強大(注4)何ぞ終に恐るるに足んと存じ候一念に御座候。

図 1

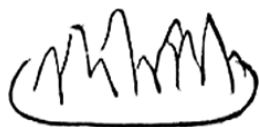
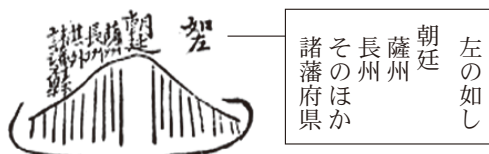


図 2



(『木戸孝允文書』)

(注 1) 皇国：日本のこと。

(注 2) 了簡：考え。

(注 3) 気脈：意思疎通。

(注 4) 五州強大：世界の強国のこと。

X 木戸は、図 1 のように自藩のみを高めることを考えていては力を合わせることはできないが、図 2 のように朝廷中心に一体となれば、世界の強国を恐れる必要はないと考えていた。

Y 木戸が参加した大阪会議の結果、漸次立憲政体樹立の詔が出されるとともに、元老院・大審院などが設置された。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問 4 疑問 2 について考察するため、ハルカさんは、明治新政府と琉球藩とのやりとりに関わる次の二つの史料を読んだ。史料 2 は 1875 年に新政府が琉球藩に出した通達、史料 3 はそれに対して同年に琉球藩が新政府に出した願書である。史料 2・3 に関して述べた後の文 a ～ d について、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

25

## 旧日本史B

### 史料2

その藩の儀、従来隔年朝貢と唱え清国へ使節を派遣し、或は清帝即位の節、<sup>あるい</sup>慶賀使(注1)差し遣わし候例規これある趣に候えども、今より差し止められ候事。藩王代替わりの節、従前清国より冊封受け来り候趣に候えども、今より差し止められ候事。 (『大日本外交文書』)

(注1) 慶賀使：ここでは清皇帝の即位を祝うために琉球国王が送った使節のこと。

### 史料3

琉球と支那(注2)との続<sup>つづき</sup>五百年來恩義これあり(中略)且つ往古より兩属の儀は各国明知するところにて(中略)仰ぎ願わくば弊藩支那との続も信義取り失わざる様、恐れながら寛洪<sup>かんこう</sup>(注3)の御処置くだされ候わば、天皇陛下御大徳ますます相<sup>あらわ</sup>顯れ、宇内の輿論<sup>うだいよろん</sup>(注4)に係わり候ても御不条理の御儀には相唱え申すまじく(後略) (『明治文化資料叢書』)

(注2) 支那：当時用いられた中国の呼称。

(注3) 寛洪：おおらかなこと。

(注4) 宇内の輿論：諸国の世論のこと。

- a 史料2から、江戸幕府は、琉球による清への朝貢使節や慶賀使の派遣を禁じていたことが分かる。
- b 史料2から、明治新政府は琉球藩に、藩王の代替わりの際に清から冊封を受けるのを止めるように通達していることが分かる。
- c 史料3では、琉球藩は明治新政府に、清からの長年の恩義に報いて藩王の大徳を示すため、清への朝貢を続けさせてほしいと訴えている。
- d 史料3では、琉球藩は明治新政府に、琉球が日本と清に両属してきた歴史を各国も承知しており、清への朝貢を続けさせてほしいと訴えている。

① a・c

② a・d

③ b・c

④ b・d

**第6問** イズミさんは、近現代の出版文化と社会との関係に着目して、探究活動を行った。活動の過程で作成した次のメモA・Bを読んで、後の問い(問1～7)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところがある。)(配点 22)

A

㉓ 大正デモクラシーの時代—出版文化の隆盛—

・総合雑誌 『中央公論』(1899年創刊) 『改造』(1919年創刊)

㉔ 社会主義の立場を含む多様な人々の意見を掲載。

・経済雑誌 『東洋経済新報』(1895年創刊) ㉕ 石橋湛山らが活躍。

問1 下線部㉓に関して述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。 26

- a 護憲三派が総選挙で勝利し、憲政会の高橋是清が首相となった。
- b 吉野作造が、政治は一般民衆の幸福を追求し、民意を尊重するべきだとする民本主義を主張した。
- c 植木枝盛らが、自主的に作成した私擬憲法を発表した。
- d 市川房枝らは、新婦人協会を組織して、婦人参政権の実現を目指した。

① a・c                      ② a・d                      ③ b・c                      ④ b・d

問2 下線部㉔に関連して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。 27

- Ⅰ 治安維持法によって検挙され、獄中で転向する社会主義者が増えた。
- Ⅱ 日本共産党幹部が公職追放を受け、民間企業も共産主義者を追放した。
- Ⅲ 片山潜らが社会民主党を結成したが、直ちに解散させられた。

## 旧日本史B

- ① I — II — III      ② I — III — II      ③ II — I — III  
④ II — III — I      ⑤ III — I — II      ⑥ III — II — I

問 3 下線部㉔に関して、次の史料1は石橋湛山が執筆した社説である。史料1に関して述べた後の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。 28

史料1 「一切を棄<sup>す</sup>つるの覚悟」『東洋経済新報』1921年7月23日

昨日までも、今日までも(中略)在朝在野の我が政治家に振り向きもされなかった軍備縮小会議が、遂に公然米国から提議された。(中略)もし政府と国民に、総てを棄<sup>すべ</sup>て掛<sup>か</sup>るの覚悟があるならば、会議そのものは、必ず我に有利に導き得るに相違ない。(中略)吾輩<sup>わがはい</sup>の説に対して、あるいは空想呼ばわりをする人があるかも知れぬ。小欲<sup>とら</sup>に囚われること深き者には、必ず左様の疑念が起るに相違ない。「朝鮮・台湾・満州を棄てる、支那(注)から手を引く、樺太も、シベリアもいらない、そんな事で、どうして日本は生きて行けるか」と。(中略)納得し得ぬ人々のために、吾輩は更に次号に、決して思い煩う必要なきことを、具体的に述べるであろう。

(『石橋湛山全集』)

(注) 支那：当時用いられた中国の呼称。

X 史料1によれば、石橋湛山は、ワシントン会議の開催に際して、日本の植民地を放棄すべきだと主張している。

Y 史料1が発表された時には、日本はシベリアに出兵していた。

- ① X 正      Y 正      ② X 正      Y 誤  
③ X 誤      Y 正      ④ X 誤      Y 誤

B

戦争の時代—厳しさを増す出版統制—

・社会主義だけでなく、自由主義的な思想・学問・言論に対する抑圧が強まる。

・河合栄治郎、津田左右吉らの著書が発禁処分になる。

(年表)

1937 年 7 月 日中戦争が勃発。

1940 年 3 月 南京に日本側の傀儡<sup>かいらい</sup>政権である  政権樹立。

1941 年 12 月 マレー半島上陸、真珠湾攻撃。

① アメリカ・イギリスに対して宣戦布告。

1945 年 6 月 沖縄での組織的抵抗が終焉<sup>しゅうえん</sup>。

8 月 ラジオ放送により昭和天皇が国民に終戦を周知。

9 月 日本政府, .

問 4 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 汪兆銘      イ 降伏文書に調印
- ② ア 汪兆銘      イ ポツダム宣言を受諾
- ③ ア 蔣介石      イ 降伏文書に調印
- ④ ア 蔣介石      イ ポツダム宣言を受諾

問 5 下線部①に関連して、この戦争に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 政府は、この戦争の目的として、「大東亜共栄圏」の建設を主張した。
- ② この戦争が始まると、政府は挙国一致を図るために帝国議会を停止した。
- ③ ミッドウェー海戦以降、日本にとって戦局は次第に悪化していった。
- ④ 東条英機内閣は、日本の勢力下にある地域の政治指導者たちを東京に集めて、大東亜会議を開いた。

## 旧日本史B

問 6 次の史料2は作家高見順の1945年5月11日の日記である。イズミさんは、史料2で高見が読んだ新聞記事が、後の史料3であることを突き止めた。史料2・3に関して述べた後の文a～dについて、最も適切なものの組合せを、後の①～④のうちから一つ選べ。

31

史料2 高見順の日記 1945年5月11日

新聞に次のような記事が出ている。(中略)なんともいえない口惜しさ、腹立たしさ、いら立たしさを覚えさせられた。敵に明らかに押されているのだ。敗けているのだ。なぜそれが率直に書けないのだ。なぜ、率直に書いて、国民に訴えることができないのだ。今までも、いつも、こうだった。だから、国民は、こういう気休めの、ごまかしの記事にだまされはしない。(中略)こんなことで、この苛烈な戦争が切り抜けられるだろうか。

史料3 高見順が読んだ新聞記事

タラカン(注)攻防戦本格化

タラカンの陸上戦闘は、敵の攻撃態勢整備とともに、ようやく本格的攻防戦の様相を呈し、敵は圧倒的の兵力量をもってわが陣地内に浸透を試み、現在戦線は西海岸飛行場南側、(中略)油田地帯にかけて拡大せんとしつつあり、(中略)わが陣地に対する敵の砲爆撃は熾烈<sup>しれつ</sup>を極めている。わが方は(中略)既に敵兵力の二割弱に当る千五百名を殺傷している。(中略)戦々兢々<sup>せんせんきょうきょう</sup>たる敵は夜になると警戒を厳にし、虎の子の戦車の如き<sup>ごと</sup>は後退せしめ、(中略)極力わが攻撃を回避せんとしているが、(中略)わが出血作戦はようやく本領を発揮せんとしている。

(『朝日新聞』1945年5月11日)

(注) タラカン：インドネシア、ボルネオ島北東岸に位置し、石油の産地として知られる。

- a 史料2から、高見順は、日本の戦局が劣勢にあることを新聞記事は正確に伝えていないと批判していることが読み取れる。
- b 史料2から、高見順は、新聞記事に書かれているよりも日本の戦局は優勢であると認識していることが読み取れる。
- c 史料3は、タラカンの油田地帯付近において攻防戦が行われていると報じている。
- d 史料3は、タラカン攻防戦における日本軍の兵力量は、敵軍と比べて2割程度少ないと報じている。

- ① a・c                      ② a・d                      ③ b・c                      ④ b・d

問 7 第二次世界大戦後の出版文化と社会について述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

32

X 敗戦後、民主化の影響を受けてプロレタリア文学運動が始まり、『種蒔く人』が創刊された。

Y 高度経済成長のなかでマスメディアが発達し、週刊誌の発行部数が増加した。

- |       |     |       |     |
|-------|-----|-------|-----|
| ① X 正 | Y 正 | ② X 正 | Y 誤 |
| ③ X 誤 | Y 正 | ④ X 誤 | Y 誤 |